

豊かなむらづくりを目指して

～平成18年度豊かなむらづくり全国表彰事業～

農林水産省では、むらづくりの展開を助長し、地域ぐるみの連帯感の醸成及びコミュニティ機能の強化を図ることで、農林漁業及び農山漁村の健全な発展に資することを目的に、農山漁村におけるむらづくりの優良事例の表彰を行い、その業績発表等を行っています。

10月13日、さいたま新都心合同庁舎1号館講堂において、今年度、農林水産大臣賞及び関東農政局長賞を受賞した管内5集団の表彰式を執り行いましたので、各受賞集団のむらづくりの概要等をご紹介します。



農林水産大臣賞事例

- 神奈川県南足柄市「^{はなまきこうせんぶしまちくじこういんかい}あしがら花紀行千津島地区実行委員会」[会長：^{せとよしお}瀬戸 良雄]
「地域住民による花の里づくりと都市住民等との交流を核にしたむらづくり」

都市近郊の水田地帯である当地区は、ほ場整備事業の実施を機に、酔芙蓉や春めきなどの花木の農道等への植栽や手づくりの農村公園造成など、花の里づくりを住民主体で進め、心安らく農村景観を創出した。

年3回の花まつりには約10万人が訪れ、地域内外の交流の活性化により直売活動が進展し、地域農業の活性化や女性・高齢者の活力向上が図られたほか、花の維持管理活動等を通じて、子供達の郷土愛が養われている。花の里づくりは市内外に波及している。



日本一の酔芙蓉農道



ハナアオイ祭の風景

問合せ 南足柄市農林緑政課 TEL 0465-73-8029

- 栃木県下都賀郡野木町「^{やばたくみあい}矢畑むらづくり組合」[組合長：^{たむらまさえい}田村 勝栄]
「住んでよかった矢畑」をスローガンに、直売所を核に住民が一体で取り組むむらづくり」

トマト栽培を営農の柱とする当地区は、基盤整備事業を契機にトマトの生産拡大が図られたが、担い手不足や高齢化等により集落の機能は低下していた。

このようななか、直売所を核とした地域づくりに取り組むことになり、当組合は設立された。非農家も含めた地域ぐるみの取組により、良好なコミュニティが構築され、農業後継者確保率は75%に達している。また、直売所収益の一部は老人会や子供会等の活動に還元されており、同組合は地域づくりの牽引役となっている。



直売所新装開店風景



鳥居の建て替え風景

問合せ 野木町産業課 TEL 0280-57-4151

○静岡県賀茂郡松崎町「^{まつぎきちやういしがちくたなだほぜんすいしんいんかい}松崎町石部地区棚田保全推進委員会」^{たかほししゅうぞう}〔委員長：高橋 周蔵〕
「郷土の原風景である「棚田」の復元と都市住民等との交流を核にしたむらづくり」

駿河湾を見渡す石部棚田は、担い手不足や高齢化等により90%以上が耕作放棄され、地域住民は荒廃した棚田に寂寞の思いを募らせていた。

このようななか、地域住民総意の下、当委員会は棚田の復元を目指して設立され、地域住民や都市住民との協働により棚田を復元した。復元後は、静岡県初の棚田オーナー制度の導入や農業体験の受け入れ等のほか、棚田で収穫した黒米等を新たな特産品の開発につなげるなど、棚田を核に地域を活性化させている。



駿河湾が見える棚田



棚田の田植え風景

問合せ 松崎町産業建設課 TEL 0558-42-3965

関東農政局長賞事例

○埼玉県蓮田市「^{のうじくみあいほうじん こまさきてんさくくみあい}農事組合法人 駒崎転作組合」^{いわさきのぼる}〔代表理事組合長：岩崎 昇〕
「集落営農組織の法人化による水田営農と地域農業を発展させるむらづくり」

当地区では、明治時代から梨栽培が行われ、水稲と梨を柱にした複合経営が行われてきた。水稲栽培等の負担を軽減するための基盤整備事業を契機として設立された当組合は、昭和62年から継続してブロックローテーションに取り組み、高い生産性を実現している。

また、同組合では、休耕地でのコスモス祭や地場産大豆・小麦を活用した農産加工品開発等を通じて、消費者等との交流も図っており、本年4月に法人化した当組合は、土地利用型農業の担い手としても期待されている。



法人設立総会



コスモス祭の風景

問合せ 蓮田市農政課 TEL 048-765-1722

○長野県長野市「^{さかなかしゅうらく}坂中集落」^{さいとう よしのぶ}〔代表：齊藤 義信〕
「中山間地域の豊かな地域資源を活用した、消費者等との交流を核にしたむらづくり」

都市近郊の当集落では主にりんご・水稲栽培が行われてきたが、高齢化や後継者不足等に伴う耕作放棄地の増加により、集落の存亡さえ危惧される状況となっていた。

このようななか、中山間地域等直接支払制度の集落協定締結を機に、ブルーベリー・栗・ギンナン・タラの芽などの省力作物の栽培や、豚の放牧などに集落全体で取り組み、耕作放棄地を減少させている。また、直売所活動等による消費者等との交流活動や農業体験による地元小学校との交流活動等に取り組み、集落コミュニティを再生しながら、集落を活性化させている。



直売所風景



農業体験学習

問合せ 長野市農政課 TEL 026-224-8737

担当 企画調整室